

# 取組み報告書

令和6年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業

【社会福祉法人 潤耀会 介護老人福祉施設アルカディアせんだ】



一般社団法人  
日本福祉用具供給協会  
中国支部 広島県ブロック

# 施設の概要

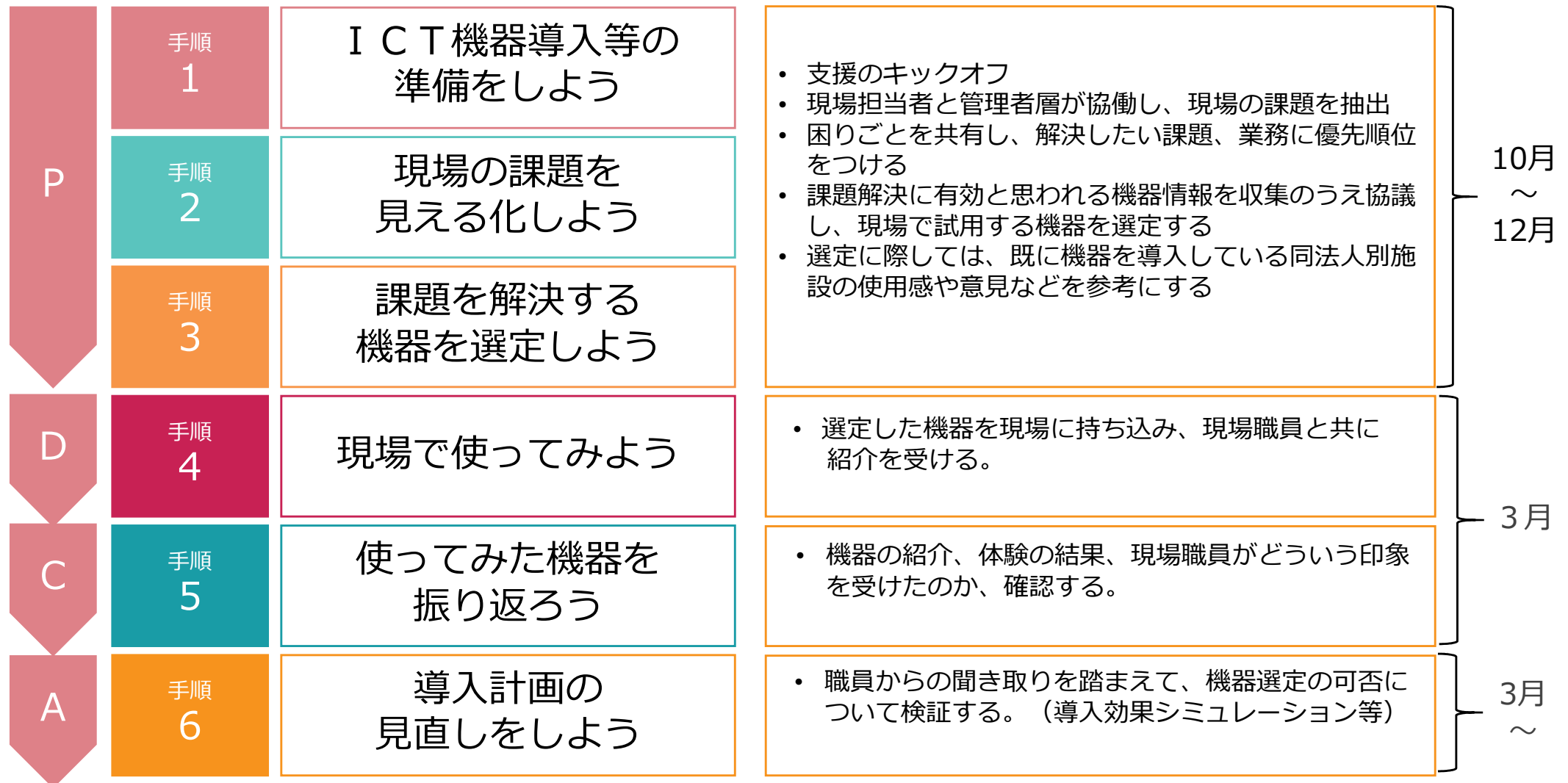


|      |                      |
|------|----------------------|
| 施設名  | 介護老人福祉施設 アルカディア せんだ  |
| 施設種別 | 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 |
| 定員   | 29名                  |
| 開設日  | 2011年4月1日            |
| 所在地  | 福山市千田町二丁目5-10        |

# 取組みの流れ

## 取組の流れ

## 具体的な取組み内容



# 手順1 ICT機器導入等の準備をしよう

## 実施内容

---

- キックオフとして、取組みメンバーを選任。
- 施設長、施設ケアマネ、現場職員 4 名を構成メンバーとした。
- 現状何に困っているのか、忌憚ない意見を出してもらう。



# 手順2 現場の課題を見える化しよう

## 実施内容

---

- 各階のユニットリーダーから、それぞれの職員から日々の困りごとや、こうなればやりやすくなるなどの意見を求めた。
- 2Fと3Fのユニットリーダーがそれぞれのフロアの困りごとやアイデアをもちより、キックオフメンバーで今現場で起きていることの洗い出しをした。

## 見える化された課題

---

- 夜勤のコール、センサー対応に課題がある。
- 入所施設が2Fと3Fに分かれており、それぞれ職員を配置し夜勤対応をしている。  
（3Fは、20名を一人で、2Fは29名を二人で対応している。）
- センサーマットを敷いているが、一斉に鳴り出したときの優先順位の判断が難しい。  
対応の遅れにより、事故（転倒など）や怪我につながる。  
※夜勤は全て介護職員で行っている。
- 他の職員がどこにいるかわからないため、応援を頼めない。

## （考察）

見守りカメラ機能を用いて状況把握をすることで、対応の優先順位をつけるなど、負担軽減につながらないか？

# 手順2 現場の課題を見える化しよう

## 実施内容

---

- 各現場で起きている課題、困りごとを抽出。
- 施設のフロア別、職種（介護職員やリハビリスタッフ、看護職等）別に、それぞれの目線で意見を出してもらう。

## 見える化された課題

---

- 夜勤のコール、センサー対応に課題がある。
- 入所施設が2Fと3Fに分かれており、それぞれ職員を配置し夜勤対応をしている。（3Fは、20名を一人で、2Fは29名を二人で対応している。）
- センサーマットを敷いているが、一斉に鳴り出したときの優先順位の判断が難しい。対応の遅れにより、事故（転倒など）や怪我につながる。  
※夜勤は全て介護職員で行っている。
- 他の職員がどこにいるかわからないため、応援を頼めない。

### （考察）

見守りカメラ機能を用いて状況把握をすることで、対応の優先順位をつけるなど、負担軽減につながらないか？

# 手順3 課題を解決する機器を選定しよう

## 今回選んだ解決したい課題

---

- ・ 見守り、コミュニケーションを軸に機器を選定、試用する。

## その理由・背景

---

- ・ 業務負荷が特にかかっているものが夜間巡視（見守り）と職員間コミュニケーションという意見が多くみられ、現場、経営層とがともに了承した。

## 課題に対する現状

---

- ・ センサーマットが反応する都度、お部屋を訪問している。
- ・ 訪問の優先順位をつけることができていない。

## 解決した後の姿（目標）

---

- ・ 夜間巡視業務の一部を、見守りセンサーに置き換えることで、不要な訪室を削減することができる。
- ・ 円滑な職員間コミュニケーションが取れ、一層の連携が図れている。



# 手順4 現場で使ってみよう

## 実施内容

- 機器の取扱いメーカーに訪訪してもらい、機器の紹介、体験を実施。

体験機器（ココヘルパVP） URL : <https://www.gcomm.co.jp/cocohelpa/vp/>





# 手順5 使ってみた機器を振り返ろう

## 使用した結果（所感）

---

- 期間の都合で、実際に現場で使用できなかった。
- 実物を見ての器機の説明だけなので、器機を使用した場合を想像するしかない。

## 集まった現場の声

---

- 全ての部屋に、VPは必要ではないのではないと思う。色々なタイプがあるため、状況に合わせて（VP、V、G、Nなど）入れてみるのもいいと思う。
- 必要に応じて、器機を取り外し部屋の変更ができるのもよいと思う。
- モニターで確認できるため、状況に応じては、すぐに駆け付けず、ひとまず声掛けを行い、訪室することができる。
- 実際に導入する場合の費用は？

# 手順6 導入計画の見直しをしよう

## 振り返りを踏まえた今後の活動

---

- どんな便利な器機であっても、使い多方次第なので、活用するのであれば、きちんと活かせるようにしないといけない。
- 導入をするにしても、きちんと機種により、使い分けを考える必要がある。

## 全体の総括（導入チームから）

---

- 今後の介護業界を見据えると、このような器機を導入していく必要はある。
- 入れたからと言って使いこなせるかは不安。
- 他にもどんな器機があるのか、興味がわいてきた。

# まとめ

## 全体を通してのコメント（アドバイザーより）

令和6年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業にエントリーいただき、誠にありがとうございました。

現在市場には多くの介護ロボット・ICT機器が存在しており、何を選んでいいのか分からないという声をよく聞きます。その際の一丁目一番地は「何がしたいのか」という目標（目的）部分を明確にすることだと考えております。

今回ご体験いただいた機器も、現在の施設様の課題を解決することのできる手段の一つだと考えておりますが、ここからがスタートになります。

今回の機器が施設様の課題解決に奏功するのか、コストとリターンは見合っているのか等、現場との対話を重ねていただき、ベストなソリューションをご選定いただけますよう、引き続き本取組みを推進していただければ幸いです。

引き続きよろしくお願いいたします。



一般社団法人  
日本福祉用具供給協会  
中国支部 広島県ブロック